

ま え が き

本校では、これまで長年にわたって、生徒の自己教育力の育成をめざして、「教科等の学習」、「選択学習」、「総合学習」をカリキュラムの柱として位置付け、それぞれ独自のものとして充実させると共に、相互の関連を重視しながら、さらにこれらの3つの学習を支えるものとして「メディア学習」を位置付けて実績を積み上げてきた。

平成14年度から全面実施される「新教育課程」に対応した展開としては、①時間・内容とも厳選される「教科等の学習」の内容・指導方法・評価、②拡大される「選択教科」の時間数・内容、③新しく創設される「総合的な学習」の時間数・体系化・内容・評価、等の研究・検討に取り組んできている。

そのような中で、附属4校園（附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属養護学校）の共通研究課題として設定されている『「今を生きる」教育の充実と創造』、また、本年度から3年間、附属4校園で受けた研究開発課題『幼稚園・小学校・中学校・養護学校が連携して発達段階に応じた学びの姿を明らかにし、各学校園間の「接続」と「共生」を重視した一体的な教育課程の研究開発』の下に、本年度から3年次計画で、研究主題『創造的で心豊かな生徒を育成する教育課程の開発』を立ち上げた。

その研究主題に迫るために、今年度の研究内容を①生徒の実態の再点検、②それに応じた「教科等の学習」・「選択学習」・「総合学習」の内容の追加・再編、③それぞれの学習のつながりや関係の明確化と工夫、④「メディア学習」から教科「情報生活科」の立ち上げ、⑤情報を含むそれぞれの学習について、小学校と中学校の接続の可能性の追究、としました。

「教科等の学習」においては、これらにかかわる公開授業・授業研究の機会を大幅に増やして、それらを通して研究主題との関わりを明確にすると共に、指導方法の改善に努めてきました。

「選択学習」では、1年から3年までの系統的なカリキュラムの構築とそれらの実践・評価を行っているところです。現行の教育課程でも行われている2年の選択学習はもちろん、1年の「選択基礎」や3年の「合科的講座選択学習」「卒業研究」「集中選択」などの幅広い選択学習は、新教育課程への移行も考慮したものです。

「総合学習」としての「BIWAKO TIME」と「HUMAN TIME」では、それぞれの分野を改編・追加すると共に、カリキュラムを再編成し、それらの充実を図りました。その中で、附属小学校の児童が「BIWAKO TIME」に参加したことは、四校園研究の実践のかけ橋ができたものとして注目すべきことである。

従来の「メディア学習」を総括し、今年度より教科として立ち上げた「情報生活科」については、試行段階ではあるものの、カリキュラムが次第に固まりつつあり、その展開に大いに期待をしている。

本紀要が研究3年計画の第1年次として、今までの実践と成果・課題を引き継ぎつつも2年次に向けての確固たる方向性が示せたものとして評価できるかどうか、諸賢のご批判、ご教示を賜れば幸いです。

最後に、本研究を遂行するに当たり、多大なご指導を賜った諸先生方に深謝します。

平成13年3月31日

滋賀大学教育学部附属中学校長

杉 田 陸 海